

氏名	今田 貴之
授与した学位	博士
専攻分野の名称	医学
学位授与番号	博乙第4410号
学位授与の日付	平成25年12月31日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第4条第2項該当)

学位論文題目	<i>Helicobacter pylori</i> eradication may increase body mass index, but the effect may not last long. A 10-year observation (ヘリコバクター・ピロリ除菌はBMIを増加させる可能性があるが、その効果は長くは続かない。10年間の観察)
--------	---

論文審査委員	教授 松下 治 教授 合地 明 准教授 和田 淳
--------	--------------------------

#### 学位論文内容の要旨

*Helicobacter pylori* (*H. pylori*) 除菌治療後の長期経過における BMI (body mass index) の推移について、日本人の患者を対象に後ろ向き研究を行い、*H. pylori* 除菌が肥満の原因となりうるかについて検討した。除菌成功した 435 例 (除菌群) と *H. pylori* 陽性だが除菌治療を拒否した 167 例 (非除菌群) の 2 群を対象とし、10 年以上追跡し BMI を記録した。10 年後の BMI は前値に対して除菌群、非除菌群ともに有意に増加した。しかしながら、BMI の増加量は非除菌群よりも除菌群で有意に大きかった。除菌群の BMI 前値は非除菌群より低く低い前値を上回る増加により、除菌群でより体重増加が大きくなり、その変化は除菌後 1 年の間にだけ生じた。除菌群で BMI 前値が低いことは、潰瘍患者が多いことと関連している。1 年後からは両群とも同じ割合でゆるやかに増加した。10 年後両群の BMI 値に有意差は認めなくなった。*H. pylori* 除菌や潰瘍治療により BMI は増加するが、その影響は大部分が除菌後 1 年以内であり、その影響はそれ以降には及ばない。

#### 論文審査結果の要旨

*Helicobacter pylori* の除菌が肥満の原因との報告があるが、長期観察は行われていない。そこで、ある企業立病院を受診して消化管内視鏡検査および *H. pylori* 検査を受けた 60 歳以下の男性 602 名を対象として、除菌治療後の body mass index (BMI) の推移について後ろ向き研究を行った。被験者を 1) 除菌群と 2) 非除菌群の 2 群に分け、10 年余に渡り毎年内視鏡検査と BMI の記録を行った。観察開始時は、除菌群で消化性潰瘍は有意に頻度が高く、BMI は有意に低かった。10 年後、両群とも BMI が有意に増加したが、変化量は除菌群が非除菌群に比し有意に大きく、両群間に有意差を認めなくなった。途中経過が評価可能な例では、非除菌群では 10 年間にわたり BMI が定率で増加したが、除菌群では最初の 1 年間で BMI が増加し、その後は非除菌群と同様に緩やかに増加した。以上より、*H. pylori* 除菌により BMI は増加するが、その大部分は除菌後 1 年以内であり、それ以降には及ばないと思われる。1 年後以降の増加は加齢に伴う増加と同等であり、一般的な健康問題としてとらえられ除菌治療を妨げる要因にはならないと考えられる。

上述のように本研究は、後ろ向きコフォート研究により *Helicobacter pylori* 除菌と BMI の関係性を 10 年余に渡って調査し、多くの臨床医が漠然と抱いていた概念に明瞭な Evidence を付与したものである。加えて、コフォート研究のデザインに関する質疑においても本研究者は明解に回答した。よって、本研究者は博士(医学)の学位を得る資格があると認める。